

(1) ・「小麦二斗

〇。

三月寅五日

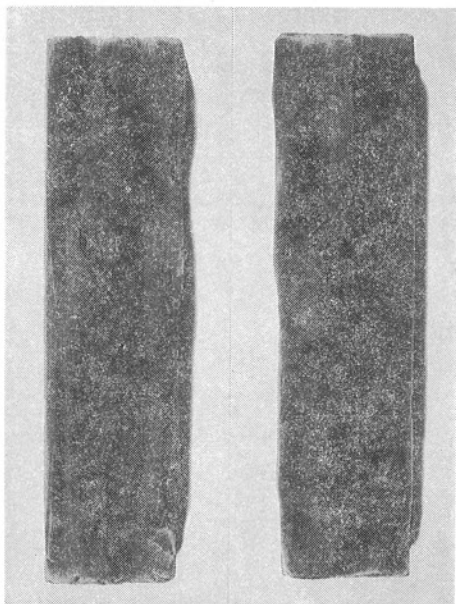
」

・「〇にしかつちや一□」

112×30×11 011

木簡は上部に穿孔を施している。記載された内容は、堺環濠都市遺跡及びこの調査地点の性格を考える上で興味深い、その考察は後に委ねたい。

(増田達彦)



兵庫・屏風遺跡 びょうぶ

- 1 所在地 兵庫県神戸市北区八多町屏風 はたちょうびょうぶ
- 2 調査期間 第二次調査 一九九一年(平3)五月～六月
- 3 発掘機関 神戸市教育委員会
- 4 調査担当者 須藤 宏
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 鎌倉時代～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

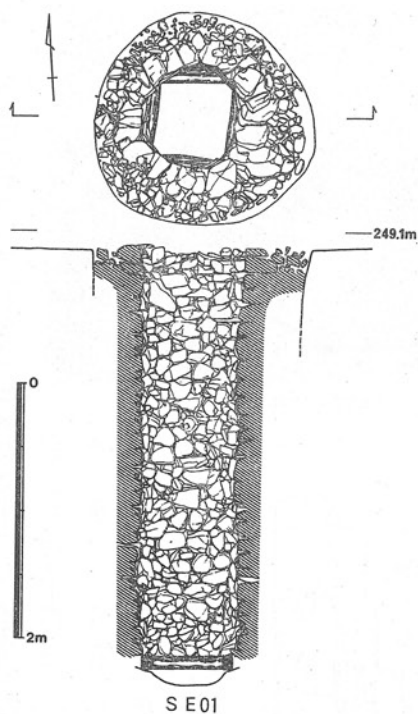


(神戸)

六甲山系の北に位置する八多町は、分水界となっており、武庫川の支流八多川が東に、加古川の支流屏風川が西に流れ、これが摂津国・有馬郡と播磨国・美囊郡の境界となる。本遺跡は屏風川によって形成された狭隘な段丘上に立地している。遺跡は川の両岸に存在するが、今回の調査地点はその北側にあたり、標高は約二五〇mで、屏風川との比高差は約三〇mである。

今回の調査地の東南一〇〇mの地点で一九八二年に実施された第一次調査では、一六世紀前半の掘立柱建物一棟、土坑六基、木棺墓一基が確認された。今回の第二次調査では、井戸一基（SE〇一）、柱穴多数、一三世紀以降の溝一条、江戸時代の土坑一基が確認された。

井戸SE〇一は内径約八〇cm、深さが現状で三四五cmを測る石組みの井戸である。その下半に漆塗椀・白木椀・盤・箸・包丁の柄・横槌・叩き台・桶・曲物・合子・横櫛・下駄・鉤・札・手斧屑・棒杭・種子・葉などの大量の木質遺物が遺されていた。このほかの遺物として、聖宋元宝・政和通宝などの中国銭、青磁・丹波・常滑（？）・瀬戸・美濃、かわらけ・土鈴などの焼きものが出土しており、こ



これらの年代から、この井戸がゴミ穴として使用されたのは一六世紀初頭と推測される。木簡もこの井戸から出土している。

8 木簡の釈文・内容

(1) ・「咄天厩 月月 庫鬼急々如律令 九々八十一」

・「」

廿

500×50×8 032

(須藤 宏)

